

第4章 運営の視点～市民参画の推進～

1 「情報共有」による市民理解の促進

今後10年間の取組内容(下水道ビジョン2020より)

- 水再生プラザの見学により、実際に下水がきれいになる過程を観察しながら、下水道を身近な存在として体験してもらう機会を提供します。
- 下水道科学館により、普段は目に見えない下水道の仕組み全般を「安全に」「楽しみながら」「体験できる場」を提供し、次世代を担う子どもたちの環境教育に取組みます。
- 下水道事業に関する理解を深めていただくため、広報誌やホームページなどを活用してわかりやすい情報発信を行います。

5カ年の主な取組

1 施設見学会の充実

- ・水再生プラザの施設見学会を開催し、下水道を身近な存在として体験してもらう機会を提供します。
- ・施設見学バスツアーを開催し、水の循環や発生する下水汚泥の処理処分等について学ぶ機会を提供します。



施設見学バスツアー

2 下水道科学館による広報活動・環境教育の推進

- ・下水道科学館フェスタの開催など、多くの方が楽しみながら学ぶことができる機会を提供します。
- ・夏休み、冬休みに合わせた学習イベントの開催など、子どもたちが環境について学ぶことができる機会を提供します。
- ・実際の下水道管やマンホールを設置するなど、下水道を体感できる展示物の充実に努めます。



下水道施設の展示

3 その他の広報活動の充実

さまざまな情報提供手段を活用し、下水道事業に関するわかりやすい情報発信を行います。

- ・広報さっぽろや下水道事業に関するパンフレット等の活用
- ・ホームページの充実
- ・下水道庁舎ロビー等を活用したパネル展の開催



災害支援活動パネル展(下水道庁舎ロビー)

達成目標

指標	22年度末	27年度末	備考
水再生プラザ見学者数	7,624人/年	8,000人/年	水再生プラザ、スラッジセンター等の見学者数
下水道科学館来館者数	43,254人/年	45,000人/年	

2 「市民参加」による施策内容の充実

今後10年間の取組内容(下水道ビジョン2020より)

- 下水道モニター制度を活用し、「市民への情報提供」「市民参加」を進め、事業の効率的・効果的な運営に反映します。
- 出前講座により、下水道事業への理解を深めていただくとともに、市民の皆さまの「生の声」を事務・事業の見直しに役立てます。
- ワークショップ*や意見交換会の開催、パブリックコメント*やアンケートの活用により、市民の皆さまの意見を事業に反映させる取組を進めます。

5カ年の主な取組

1 下水道モニター制度の活用

・施設見学会やワークショップ、アンケート調査などを通じて、モニターの皆さまから下水道事業に関するご意見をいただき、今後の事業運営に反映します。

～下水道モニター制度～

下水道事業に対する市民意識の把握、事業への一層の市民理解を図るための制度。参加者は連絡会や施設見学会に参加し、意見を提供したり、アンケートに回答する。



ワークショップ

2 出前講座制度の活用

・下水道事業に関するわかりやすい情報提供を行うとともに、対話によるニーズの把握に努めます。

～出前講座～

市政のさまざまなテーマについて、市職員が市民のもとに出向いて説明や質疑応答を行い、市政への理解促進や市民意見の反映を図る制度。



出前講座

3 その他の広聴活動の充実

市民の皆さまからご意見をいただく機会を積極的に設け、利用者の立場に立った下水道事業の運営に努めます。

- ・下水道科学館来館者へのアンケート調査の実施
- ・パブリックコメントの活用
- ・ホームページを活用した意見募集



アンケート調査

達成目標

指標	18～22年度	23～27年度	備考
市民の皆さまの声を聞く取組	7回/年	10回/年	ワークショップ、アンケート、出前講座、パブリックコメント等の開催回数